

大豆の播種期とダイツサヤタ マバへの被害との關係

農林省佐賀農事改良實驗所 秀島禮太郎

此種試験は既に茨城縣石岡試験地に於て實施され其の成績も發表されてゐるが、こゝでは主として西日本特に九州地方に多い夏大豆型の品種に就いて本年度の試験の結果を述べる。

本試験の成績に依つてもダイツサヤタマバへの被害が夏大豆型の品種でも、其の収量に及ぼす影響は甚大であつて、減收の大部分が本虫の被害によることは明かに認められ、又その被害の程度は播種期並に品種によつて相當著しい差違を生じてゐることが判明した。

播種期試験の結果は品種の熟期により被害の程度及び収量の減少の傾向が異つてゐる。

即ち早生種では5月21日播迄は被害程度並に収量には殆ど増減がなかつたが、5月31日播より被害は急激に増加し總莢數の30%以上が被害莢であつて、収量は4月1日播の約60%に減少した。中生種では被害當初から漸次上昇して5月31日播以後は被害莢歩合は60%内外となり、その収量は4月21日播が反當2石1斗で播種期を10日遅らす毎に大體3斗8升の減收となり収量比曲線は直線的に現はれた。

この様に減收の原因となるダイツサヤタマバへの被害は開花の時期と密接な關係があるわけで本年度の成績では開花期が7月10日～7月30日のものに被害は最も多かつた。